

2023年9月13日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気*	緩やかに回復している
長野県内景気	持ち直しの動きに弱さがみられる
6月の生産動向	生産は足踏みがみられる
7月の個人消費	乗用車新車販売は7カ月連続で前年を上回る
7月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を上回る
7月の住宅投資	新設住宅着工戸数は4カ月ぶりに前年を上回る
7月の雇用情勢	有効求人倍率は4カ月連続で前月を下回る

今後は、個人消費に影響を与える実質賃金の伸びがプラスに転じ、推移していくかどうかに注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2023年8月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

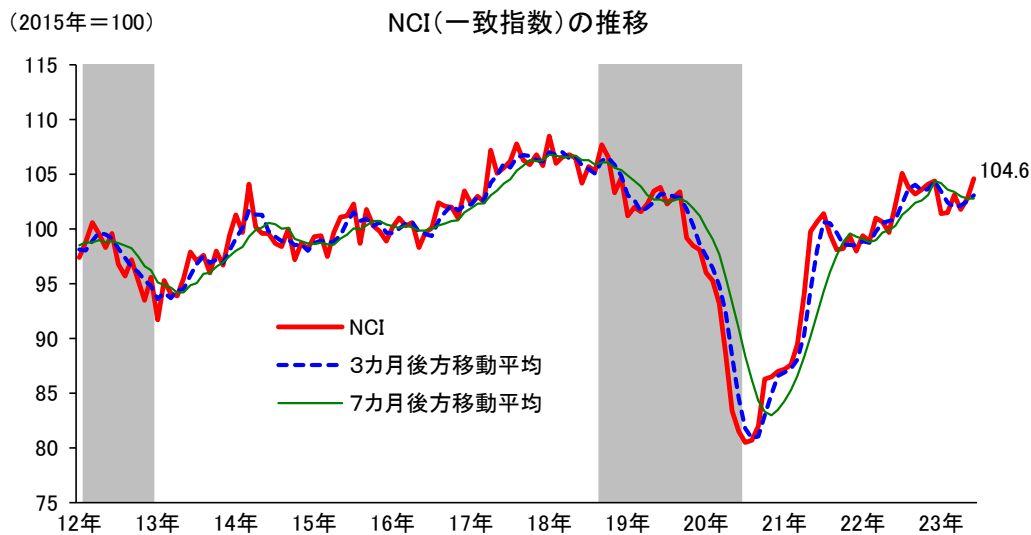
担当 桑井、伊東

電話 026-224-0501

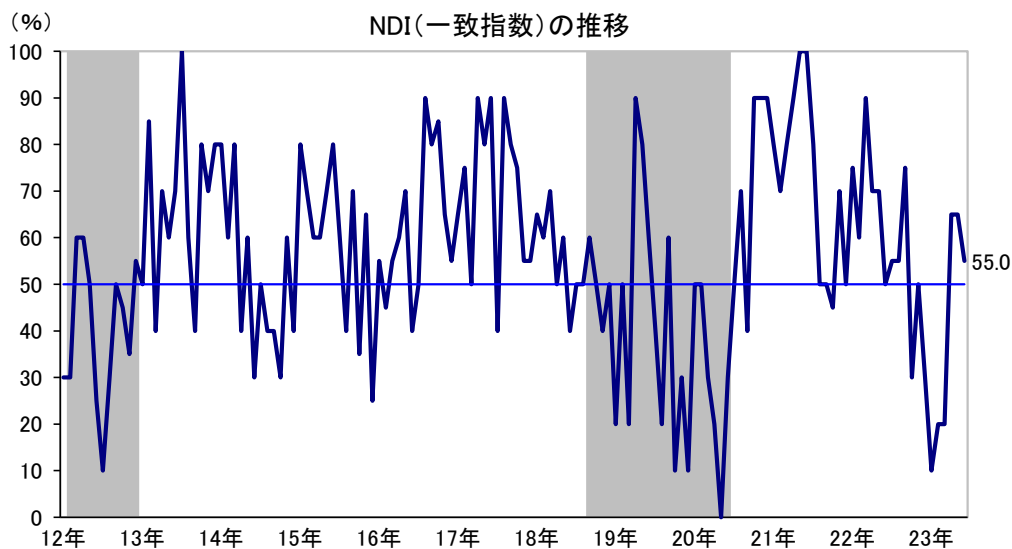


景気動向指数

- ・6月のNCI(一致指数)は、104.6と前月と比較し+1.8ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同+0.5ポイントと3月連続で上昇し、7カ月後方移動平均は前月と同じだった。NCI(一致指数)は、改善を示している。
- ・NDI(一致指数)は、55.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を3カ月連続で上回った。



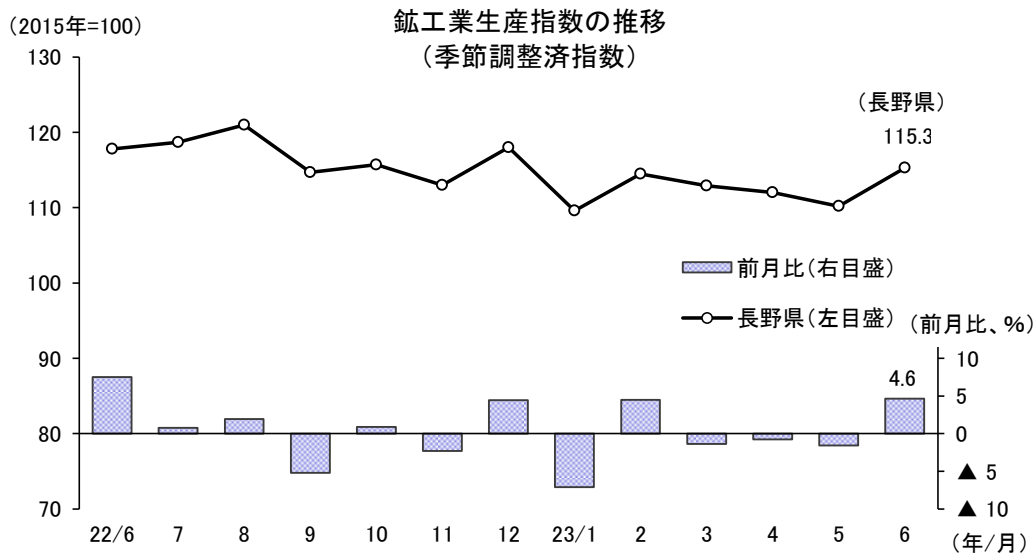
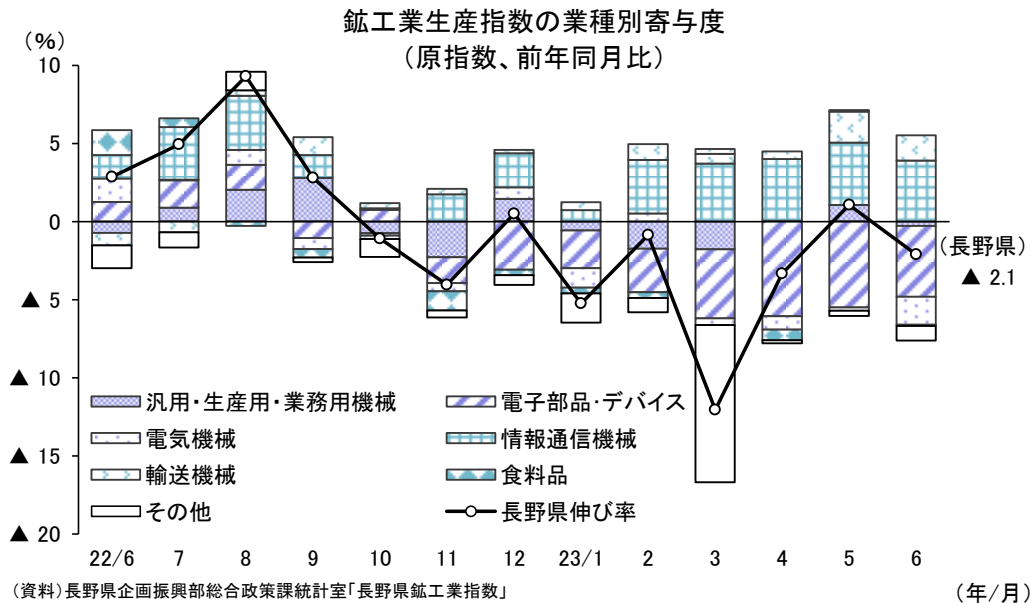
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 注1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 注1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

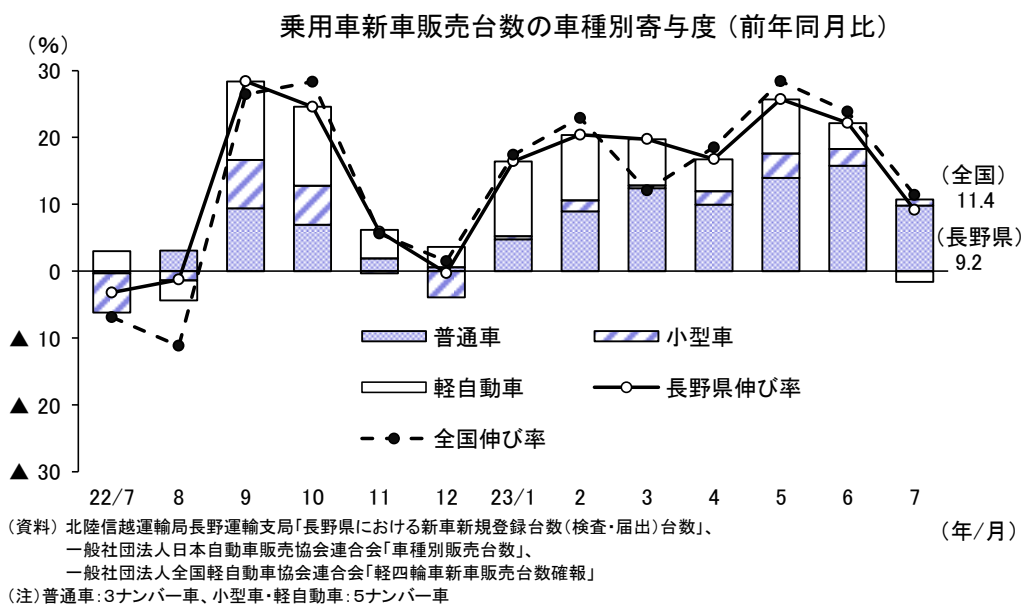
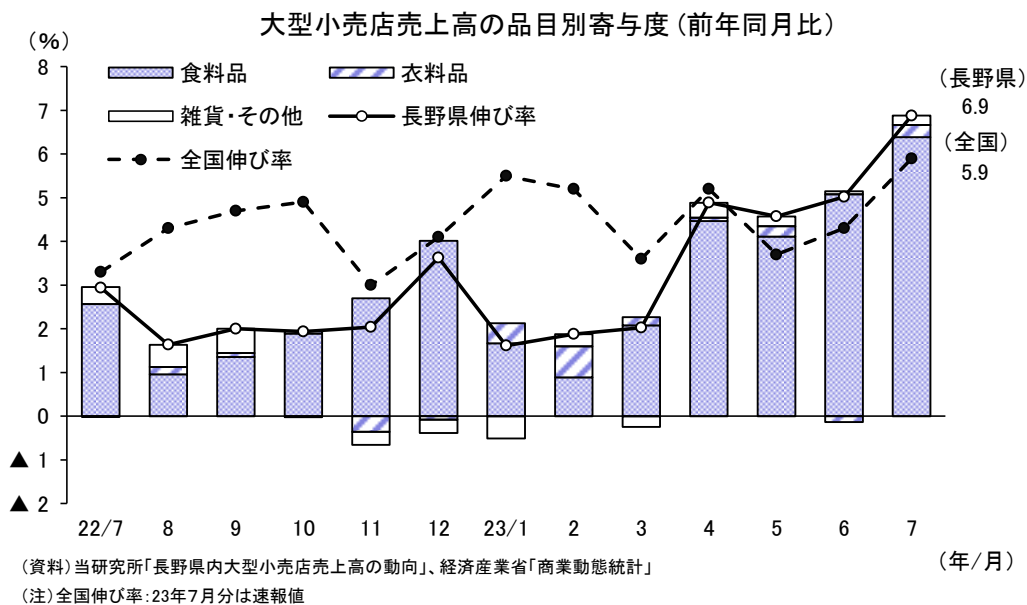
生産は足踏みがみられる

- 6月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△2.1%、季節調整済指数が前月比+4.6%となった。
- 原指数は2カ月ぶりに前年を下回ったものの、季節調整済指数は4カ月ぶりに前月を上回った。内需は堅調に推移しているものの、外需の縮小がみられ、生産は足踏みがみられる。
- 主要業種別にみると、「情報通信機械」、「輸送機械」などが前年を上回ったものの、「汎用・生産用・業務用機械」、「電子部品・デバイス」、「電気機械」などが前年を下回った。



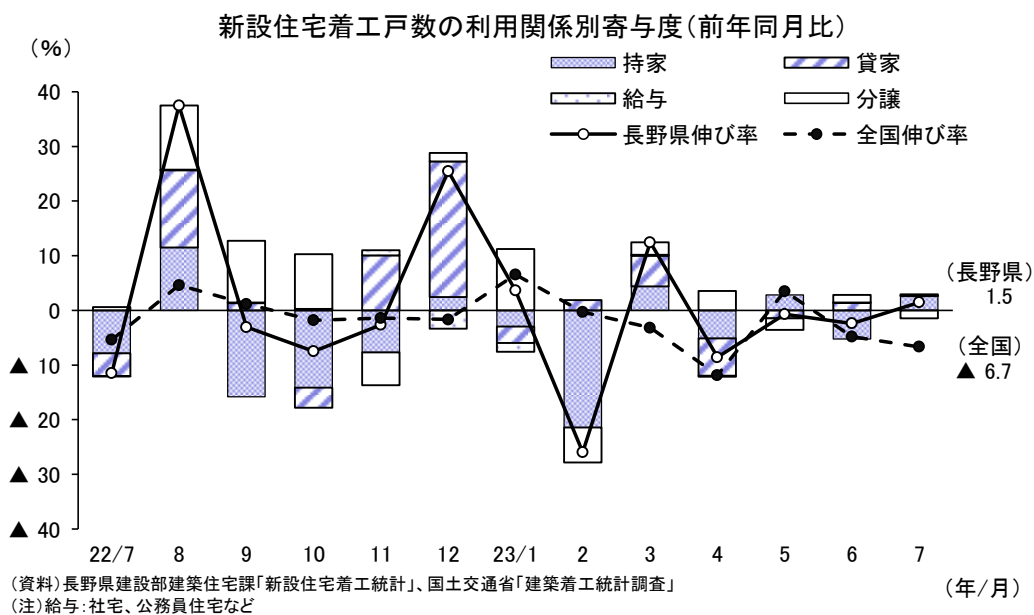
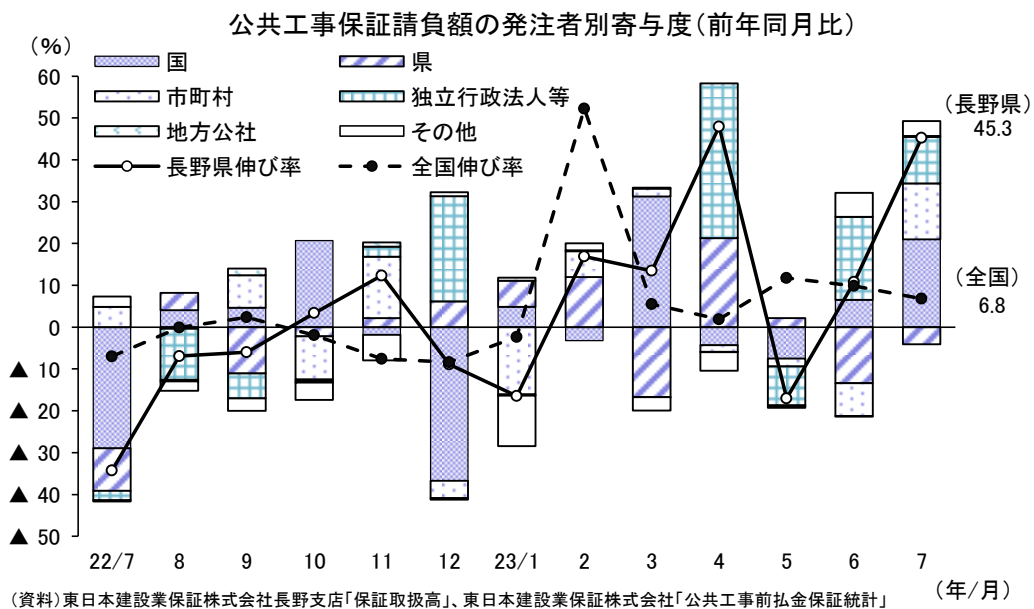
乗用車新車販売は7カ月連続で前年を上回る

- 7月の大型小売店売上高は、前年同月比+6.9%（売場面積調整前）となり、22カ月連続で前年を上回った。食料品は、気温の高い日が続いたことで飲料などが好調だったほか、販売価格の上昇などもあり、同+7.5%となった。衣料品は、外出機会の増加に伴い夏物の売上げが増加し、同+5.6%となった。雑貨・その他は、身の回り品などが堅調で、同+2.2%となった。
- 7月の乗用車新車販売は、半導体不足等に伴う納車遅れが徐々に改善し、前年同月比+9.2%と7カ月連続で前年を上回った。車種別にみると、普通車は同+29.2%と12カ月連続、小型車は同+4.1%と7カ月連続で前年を上回った。一方、軽自動車は同△3.6%と11カ月ぶりに前年を下回った。



公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を上回る

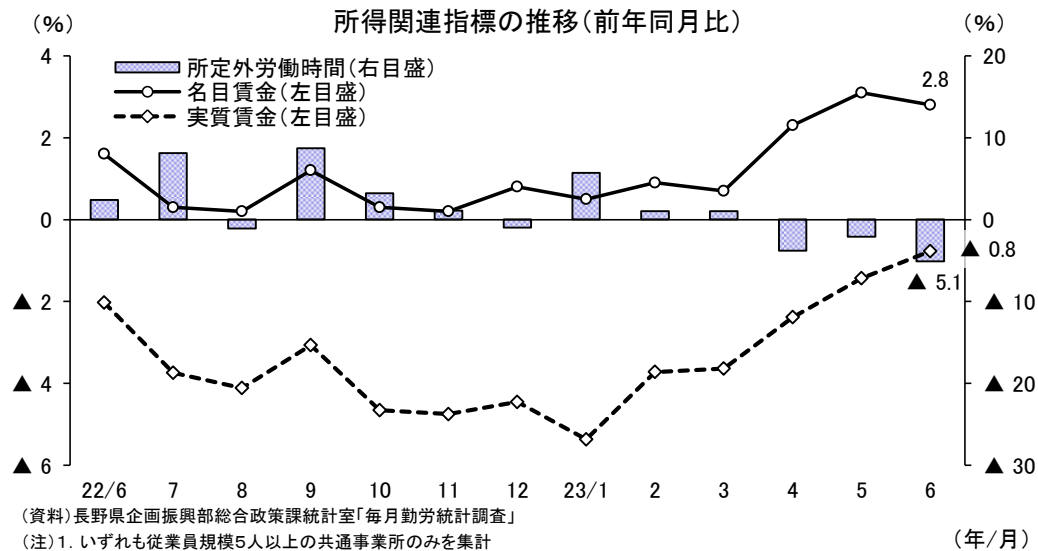
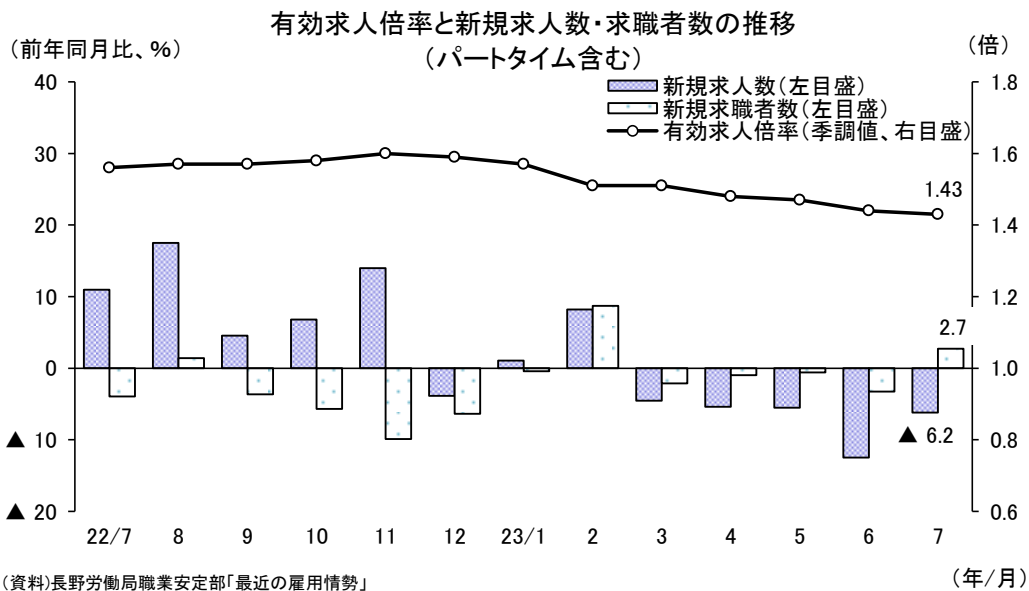
- 7月の公共工事保証請負額は、前年同月比+45.3%の226億7,000万円となり、2カ月連続で前年を上回った。発注者別にみると、県が同△13.8%と減少したものの、国が同+110.6%、市町村が同+29.8%、独立行政法人等が同+480.0%、地方公社が同+229.4%、その他が同+79.4%と増加した。
- 7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+1.5%の1,041戸と4カ月ぶりに前年を上回った。利用関係別にみると、分譲が△10.6%と減少したものの、持家が同+4.6%、貸家が同+0.3%と増加した。



雇用

有効求人倍率は4カ月連続で前月を下回る

- ・7月の有効求人倍率は、前月比△0.01ポイントの1.43倍と、4カ月連続で前月を下回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△6.2%となり、5カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△7.5%、パートは同△2.1%となった。主要産業別では、医療・福祉が同+7.4%、卸売業・小売業が同+2.5%、宿泊業・飲食サービス業が同+0.7%と前年を上回ったものの、製造業が同△23.9%、建設業が同△5.7%、運輸業・郵便業が同△5.9%などと、多くの産業が前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比+2.7%と5カ月ぶりに前年を上回った。
- ・6月の名目賃金は前年同月比+2.8%と26カ月連続で前年を上回ったが、実質賃金は同△0.8%と18カ月連続で前年を下回った。所定外労働時間は同△5.1%と、3カ月連続で前年を下回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

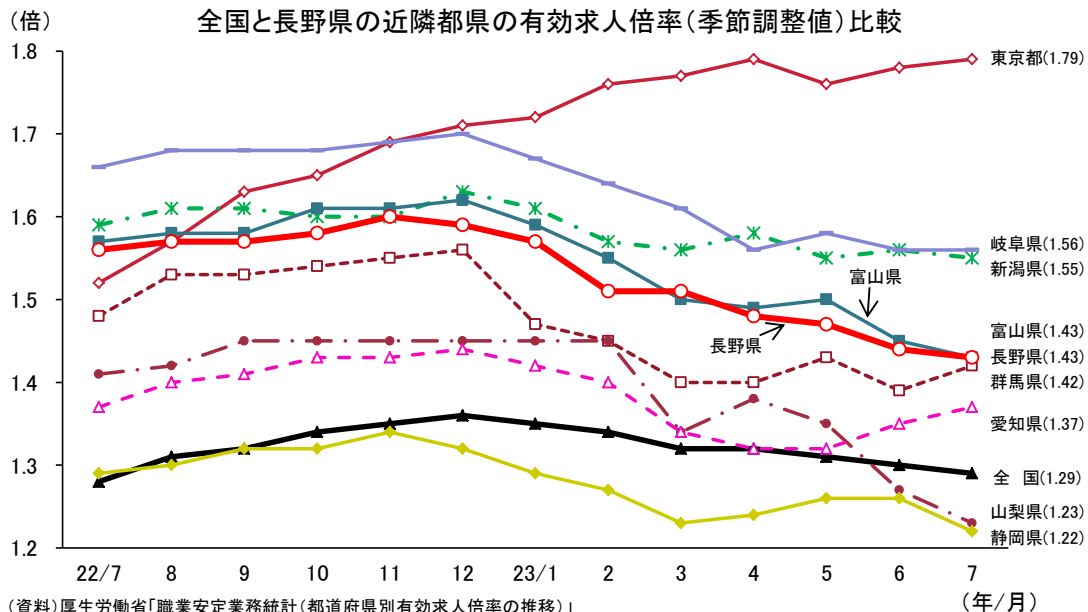
有効求人倍率は34カ月連続で全国を上回る

- ・7月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.10ポイントの1.37倍、東信が同△0.18ポイントの1.40倍、中信が同△0.08ポイントの1.48倍、南信が同△0.16ポイントの1.41倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、木曾福島が1.65倍と最も高く、次いで飯田が1.58倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は34カ月連続で全国を上回り、順位は前月より1つ上げ11位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(23年7月)

地域	北 信(1.37) (前年同月比▲0.10)				東 信(1.40) (前年同月比▲0.18)		中 信(1.48) (前年同月比▲0.08)			南 信(1.41) (前年同月比▲0.16)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.43	1.19	1.55	1.35	1.34	1.46	1.48	1.65	1.36	1.58	1.29	1.39
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.07	▲ 0.20	0.10	▲ 0.18	▲ 0.18	▲ 0.20	▲ 0.09	▲ 0.03	▲ 0.03	0.03	▲ 0.25	▲ 0.23
うち常用	1.28	1.16	1.43	1.26	1.26	1.42	1.27	1.55	1.24	1.51	1.14	1.30
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.04	▲ 0.18	0.06	▲ 0.19	▲ 0.15	▲ 0.16	▲ 0.02	▲ 0.04	▲ 0.03	0.07	▲ 0.19	▲ 0.24

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」
(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」
(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む
2. 長野県の近隣都県及び、経済規模、産業構造が類似している県